

【別紙様式7】

ふりがな	とうきょうがくけいだいがくふそくこくさいちゅうとうきょういっくがっこう	指定期間	27～31
学校名	東京学芸大学附属国際中等教育学校		

平成28年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	189人	人	人	人	300人
	SGH対象生徒以外:		170人	180人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 既に自主的に取り組む生徒は多いが、SGHの取組によりさらに明確な目的意識をもって取り組む生徒の増加が期待される。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		57人	90人	人	人	人	85人
	SGH対象生徒以外:		40人	50人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 既に海外に赴く生徒は多いが、SGHにより海外の学生との交流が深まり、海外で学ぶハードルがより低いものになることが期待される。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		64%	74%	%	%	%	85%
	SGH対象生徒以外:		60%	60%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 既に国際的な仕事を志す生徒は多いが、SGHの取組を通して国際的な仕事の関するイメージがさらに明確になることが期待される。国内で異文化を受け入れるグローバル人を目指す人もここに含まれる。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		37人	35人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		10人	10人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高い水準の課題研究を通してこれらの大会でさらに成果をあげることが期待される。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		50%	75%	%	%	%	75%
	SGH対象生徒以外:		50%	50%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英語力の向上のためには既に様々な試みを行っているが、SGHで英語での交流の場がさらに多くなり、英語力のさらなる底上げが期待される。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		45%	45%	%	%	%	%
目標設定の考え方:本校は既に多くの生徒が国際化に重点を置く大学へ進学しているが、今後国際的な仕事を志す生徒が増加することに伴い、さらに割合が高くなることが期待される。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		5人	5人	人	人	人	人
目標設定の考え方:グローバルスタンダードを意識した教育実践を行うといった留学支援制度の充実に伴い、今後海外大学に進学する生徒の増加が期待される。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方:既に行っている課題研究が生徒に与えるインパクトを考えると、SGHの課題研究は生徒の進路に良好な影響を与えることが期待される。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	300人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方:仮説1, 2の取組、そして卒業生の取組の紹介などを積極的に行うことによって今後増えると考えられる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	124人	128人	141人	140人	人	人	人	150人
目標設定の考え方: 海外研修には毎年5学年のほぼ全員が参加しているが、それ以外の海外研修者を毎年数人ずつ派遣することを計画している。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	123人	130人	128人	143人	人	人	人	200人
目標設定の考え方: 理数等の課題研究の一環として国内研修を行っている。それに加え文科系、または文理を融合した課題研究に関する国内研修の機会を増やすことを目指している。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	8校	8校	9校	10校	校	校	校	12校
目標設定の考え方: 本校は海外研修先としてカナダの3高校と1つの大学、さらにニュージーランドに2高校、台湾の1高校、フィリピンの1高校、英国の1大学、フィリピンの1大学と提携している。今後年に約1校ずつ連携先を増やしていくことを目指している。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	37人	48人	62人	65人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 学芸大学との高大連携が強まる中、今後人材の交流が活発になることが期待される。また東京外国語大学等他大学と協定を結ぶことによって、今後より多くの人々の参画が期待される。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	25人	25人	45人	60人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 課題研究の専門家との連携を毎年定期的に行っていくことを計画している。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	30人	30人	人	14人	人	人	人	60人
目標設定の考え方: 課題研究の成果を積極的に外部の大会で発表することを計画している。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	135人	135人	140人	142人	人	人	人	145人
目標設定の考え方: 本校では帰国生・外国人生徒を毎年一定人数受け入れている。また留学生は毎年1、2名積極的に受け入れている。								
先進校としての研究発表回数								
h	2回	2回	2回	3回	回	回	回	4回
目標設定の考え方: 2年に一度、公開授業研究会を開催していることに加え、来年度からは年一度、各教科ごとで授業公開を行うことを計画している。また研究指定の3年目以降、SGHの研究発表も行うことを計画している。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△	△	△				○
目標設定の考え方: 整備の人員確保により、ホームページの整備情報が向上することが期待される。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	365 (全校708)	379 (全校727)	385 (全校729)	392 (全校742)			
SGH対象生徒数			385	392			
SGH対象外生徒数							